

製品品質の維持・向上

2016年度の取り組み

モノづくりにたずさわる実生産現場における品質保証、生産性の向上をめざしたチーム活動の報告の場として「グローバル・クオリティ・カンファレンス(GQC)」を2016年11月に開催しました。この会議は、参加範囲をグローバル拡大してから11回目、当初の国内活動報告から数えて45回目の歴史があるものです。

当日は本社に関係者約40名が集まるとともに、会議の様子は国内全生産拠点にTV会議システムを用いて配信されました。

本会議には、予選を勝ち抜いた日本7チーム、中国・アジア・欧米からの7チームが参加し、お互いの活動を発表し、競い合うだけでなく、改善手法等の共有、グループ会社間の親交を深めることができました。地域・事業領域が異なるなかでも、改善をあきらめないマインド、「現場による」「現場のための」改善活動などが、各拠点において“大きな実”となることを期待しています。



GQCでの講演



GQC参加者

サプライチェーンマネジメント

お取引先からの原材料、設備、あらゆる物品・サービスの供給があってこそ日本ペイントグループの事業は成り立っています。

日本ペイントグループはお取引先との相互信頼のもと、公正かつ誠実な調達活動に努めています。

原材料調達における考え方・取り組み

事業継続計画(BCP)に配慮した取り組みとして、原材料の統合、調達先の複数確保、代替品の評価などを実施しています。

サプライヤーの方々にも、BCP活動推進を要請しており、万一の災害・事故発生時には、初動対応として、サプライヤーに影響の有無を一斉に問い合わせるシステムも構築しています。

法令や社会規範の遵守に関しては、各国の法令遵守は当然のこと、反社会的勢力の排除や、紛争鉱物使用の疑いがある原材料の調達を禁止しています。

紛争鉱物や児童労働など人権侵害の疑いがある原材料については、サプライチェーンの川上までさかのぼって調査し、使用され

ていないことを確認しています。

サプライヤーの選定についても品質の安定・価格競争力だけではなく、人権尊重や法令・社会規範の遵守、BCPへの取り組み、環境保全・安全への取り組み、経営の健全性を考慮しています。

日本ペイントグループでは下請法の遵守をより確実にするための取り組みを行っています。

各事業会社、下請法責任者を配置し、支払いに不備がないことの確認はもちろん、各工場が発行する注文書の記載事項のモニタリングなどを行っています。

また、下請先と関わる全社員を対象に毎年講習会を実施し、下請法に対する理解向上を図っています。

社員とともに〈Engagement〉

日本ペイントグループは「Global Paint Major」をめざして
社員一人ひとりが生き生きと活動できる職場環境づくりに努めています。

社員に対する基本的な考え

- 経営と社員の信頼関係を大切にし、活性化した企業風土を醸成する
- 「働きがい」と「実績の向上」をチームワークを通じて実現する
- 社員の能力を最大限に発揮できる人間力経営
- 成長意欲と自助努力のベースなしに人間は成長できない。人財育成の基本を「自己責任」におく

ダイバーシティの推進

社員全体でダイバーシティを強みとする組織風土の醸成と、性別・年齢・国籍などの属性に関わらず、個人のもつ経験・能力・発想などの「知の多様化」と働きがいのある環境整備を進め、一人ひとりが100%のパフォーマンスを発揮できる会社にしていきます。

「多様性」をグループの競争力の源泉とするために、「あたりまえ」をあるべき姿とし、4本のダイバーシティ推進軸に沿って活動を進めています。

当社の考える「あたりまえ」

多様な人財の登用があたりまえ

ポジションとミッションが明確かつ適所適財が実現

自立的な人財があたりまえ

世界中のあらゆる社員がそれぞれの場所で世界共通のビジョンに基づき、自立的に行動し結果を出している

イノベーションの創出があたりまえ

「違い」を受容し、強みとして活かす組織力を確立

2016年4月に経営トップのコミットメントのもと、ダイバーシティ推進室およびダイバーシティ推進委員会を発足させました。委員会では、グループ全体の多様性を活かす風土・組織づくりを推進するための施策の議論・決定を行っています。

マネジメント層への意識改革

～ダイバーシティマネジメント研究会～

2016年度は部門長層を対象に、2017年度からは全管理職層を対象に、ダイバーシティ推進の目的・必要性の理解浸透を図り、各組織での「個」を活かすダイバーシティマネジメントの具体的実践を促進しています。

多様な社員の「違い」を受け容れ、うまく活かすことで組織やチームのパフォーマンスの向上を図ることが会社全体のダイバーシティ風土醸成につながります。

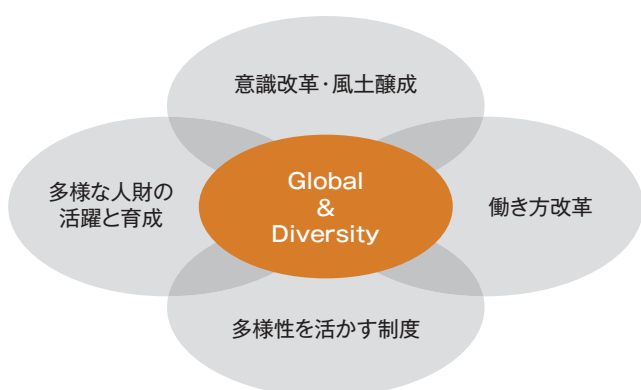


ダイバーシティ
マネジメント研究会
(部門長対象)



ダイバーシティ
マネジメント研究会
(基幹職対象)

▼ ダイバーシティ推進軸



全社員対象のダイバーシティに関する啓蒙 ～明日の“はたらく”を創るフォーラム～

日本ペイントグループ(国内)の全社員を対象にダイバーシティを啓蒙する講演会を年4回実施しています。

講演ごとに訴求するテーマを変え、自分自身とチームの仕事、働き方、働きがい、将来のキャリア等を自発的に考える機会を提供し続けています。自立した社員であふれる会社へ向けた取り組みです。



明日の“はたらく”を創るフォーラム

人財の活躍と育成

女性活躍推進

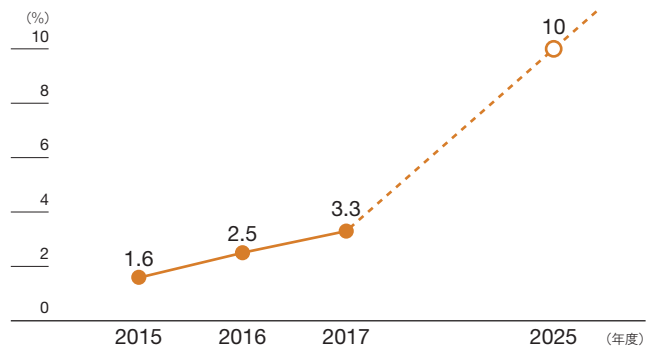
2015年度から女性管理職候補者を対象とした女性リーダー育成研修を実施しています。更にステップアップしたいという意識を醸成し、リーダーとしての思考を備えるプログラムで「ありたい姿」を描き、キャリア形成を促しています。

また、女性チームで構成する課題解決プロジェクトや営業への職域拡大等に取り組んでおり、女性リーダー輩出の動きが活性化しています。また、男女問わずキャリア継続可能な環境づくりも並行して進めています。



女性リーダー育成研修

▼ 女性基幹職比率



階層別研修

従来の研修は、勤続年数に合わせたスキルと論理的思考方法の教育が中心でしたが、グローバル人財として求められるコンピテンシーを明確にした上で、成長の階層ごとでの研修体系の組み直しを図っています。

具体的には、リーダーシップ、グローバルという観点より育成と選抜を行い、経営人財候補のプール強化を図っています。

グローバル共同研修

将来のグローバル成長を担う人財をグループの中から育てる取り組みで、当社ではアジア地域の社員とともに階層別のリーダーシップ研修を毎年開催しています。

現在は、アジア地域の社員と取り組んでいます。今後は世界各国のグループ各社から選抜された社員が集い、「グローバルリーダー」としての素養を高め、育ちあう機会を創出していきます。研修中は、参加者が寝食をともにするため、互いの文化への理解深化や信頼関係の構築も進んでいます。「Global Paint Major」となるために、グループ一丸となって、世界で戦える人財の育成に尽力していきます。



グローバル共同研修の参加者

若手人財の海外派遣

グローバルという大きなフィールドをめざす意欲が高い若手層からメンバーを選抜し、海外派遣研修を実施しています。派遣は2014年度から継続して進めており、次世代を担う若手層の早期育成と、グローバル人財のプール構築を継続的に図っていきます。

海外研修生の長期受け入れ

海外グループ会社の社員を研修生として日本国内で長期にわたり受け入れ研修を実施しています。人財育成のみならず、国内のグローバル化、派遣元との関係強化を推進しています。グローバル化に向けての風土が醸成され、多様性の受容度が高まっています。



栃木工場での研修生の受け入れ

人事フォーラム

人事本部とグループ各社(海外)の人事責任者が一堂に会し、年に一度の人事フォーラムを開催しています。

各社の人事課題を相互に把握し、解決に向けた実行計画とフォローアップを展開するとともに、達成状況の共有を通じてベストプラクティスに結びつけます。ローカル、リージョン、グローバルレベルでの人事課題解決の場として重要な場となっています。



人事フォーラム

採用

新卒採用に関しては次世代を担う経営人財の観点も含め活動の強化を進めています。

自ら目標を定め、失敗や挫折を繰り返しながらも、自律的に立ち向かってきた人財の採用に加え、海外留学生、外国人留学生を含め多様性に富む人財の確保に努めています。

あわせて中途採用も積極的に進め、外部経験者の活用を通じて、「Global Paint Major」に向けたグローバルでの事業拡大を人材面よりサポートしています。

働きがいのある職場づくり

変化に対応できる組織人財の多様化をめざし、様々なバックグラウンドのある社員に対して働きやすい職場環境の提供を積極的に進めています。

安定した雇用と安心して働くことのできる職場を提供することは、社員のためだけでなく、広く社会に貢献することにもつながると考えています。

育児休業制度・介護休業制度は、利用頻度が増え、定着の域に達しています。この他、当社では、連続5日の休暇取得が可能な1ウィークホリデー制度を設けており、チーム運営で休暇取得者の仕事を補い、一人ひとりが計画的に休暇を取りやすくする環境を創りあげています。

また、職場ハラスメントを重要課題にあげ、全社員に向けた講習会の実施、上司への指導等を行っています。その他、ストレスチェックによる職場状況の把握によってメンタル不調の未然防止や、能力が最大限に発揮できるように社員のモチベーション向上につながる意識・満足度のモニタリングを行っています。

また、ダイバーシティ推進活動から抽出された課題に対して、新しい制度づくりに取り組んでいます。

「多様性」を日本ペイントグループの競争力の源泉とするためには、働き方の改革が必要不可欠です。社員一人ひとりが自分の成長に責任を持ち、自分の働き方を主体的に選択し、業務遂行できる風土・制度・仕組みづくり、および社員の成長が会社の成長に還元されるサイクルづくりを進めています。

地域社会・国際社会での貢献活動

経営理念である「共存共栄」の精神に基づき、社会とのつながりを重視した活動を行い、国内外において、地域と密着した社会貢献活動に取り組んでいます。

国内での取り組み

未来への社会投資

～子ども化学実験ショーに出展～

日本ペイントグループは「夢・化学-21委員会」(日本化学会、日本化学工業協会等)が主催する「子ども化学実験ショー」に出展しています。このイベントは年に1回、東京・大阪の2都市で開催されており、日本ペイントグループからの出展は、東京では2011年から6年連続、大阪では2015年から2年連続です。

「子ども化学実験ショー」は、

- 1) 社会や暮らしの中における化学技術の重要な役割を、実験を通じて小学生に体験していただくことで、化学への興味を深める。
- 2) 小学生およびその保護者に化学の持つ可能性や将来性を認識していただき、化学業界の有望な人材育成につなげる。

を趣旨として開催されており、日本ペイントグループもこの趣旨に賛同し、出展を続けています。2016年は、グループの社員と入社内定者(当時)が、ボランティアとして参加しました(東京30人・大阪50人)。

2016年は、自動車や工業製品などで幅広く採用されている、電気の力で塗装する方法である電着塗装を簡易的に体験する「塗料と電気の実験」を出展し、参加者には、金属製の定規などを塗装していただきました。また、塗料はローラーとはけで塗るもの、というイメージを持たれがちですが、普段目にするのがない特殊な塗装方法を体験していただきました。参加児童からはもちろん、保護者の方々からも質問が出るなど、東西ともに盛況のうちに終わりました。

日本ペイントグループは、今後もこのような活動を継続することで、次世代の人材を育む活動を推進していきます。



特殊な塗装法が体験できるブースを出展

熊本震災復興支援

～仮設団地で塗装イベントを開催～

2016年11月27日、熊本県益城町立飯野小学校の仮設団地において、三菱地所レジデンス株式会社と業界の垣根を超えたコラボレーションにより、塗装イベントを開催しました。仮設団地内の集会所である「みんなの家」の内壁を日本ペイントグループの製品ブランドである「ROOMBLOOM」の塗料を使用し、仮設住宅の住民、飯野小学校に通う子どもたちや保護者の方々とともにペイントしました。大きな木を描いたり、手形をつけたり、思いを込めつつ楽しみながら塗っていきました。また熊本県産いぐさを原料として新たに開発した塗料「いぐさペイント」を使用しました。

日本ペイントグループは、本支援に3つの思いを込めています。

- 1) 企業連携により継続的な復興支援の新しい形を見出す。
- 2) 「いぐさ」を使った新しい塗料による価値創出を通して熊本の復興に貢献する。
- 3) 「塗料」を活用してコミュニティを活性化する。

地元熊本県産「いぐさ」を塗料とコラボレーションさせることにより、新しい価値を創出するとともに、塗装をコミュニケーションツールとして人々の気持ちをつなぎ、コミュニティの活性化に貢献しました。

今後も、日本ペイントグループは「塗料」だからこそできる地域への貢献を実施していきます。



壁に手形をつける様子



大人も子どもも楽しみながら塗装

アジアでの取り組み

子どもたちの夢をサポート【マレーシア】

Nippon Paint (Malaysia) Sdn. Bhd.は、2014年から2028年にわたる長期プロジェクトである「Art by Children for Children（子どもたちによる子どもたちのためのアート）」に協賛しています。

本プロジェクトは、アート展を通して集まった資金をもとに、マレーシアのNGO「Yayasan Generasi Gemilang」と共同で信託基金を設立し、優れたスキルを持つ子どもたちが夢をかなえられるようサポートすべく、教育の場を提供しています。

「Art by Children for Children」には、4歳から16歳までの児童保護施設にいる子どもたち181人が作品を出品しました。出品した子どもたちには基金を通じて、社会に出てから必要になるITスキル、財務知識、英語力や意思決定力を身につけるプログラムに参加していただきました。また、18歳で施設を出た後の自立支援のため、アート展でビジネス関係者との交流を行い、将来活躍する場につなげるといった機会も創出しています。



「Art by Children for Children」に参加した子どもたち

生活改善と地域の振興を支援【中国】

Nippon Paint Chinaグループは、従業員600人以上が参加したチャリティーウォークイベントを開催しました。集まった1,500万元(約2億4,700万円)を、児童支援を目的とするNGOへ提供することで、何百万人もの子どもたちの生活改善に貢献しています。

また、地方にある13の学校と5つの町でペイントアートを制作しました。このペイントアートを一目見ようと観光客が集まるといった地域振興に寄与しています。なお、ペイントアート制作に際し、18名の国際的アーティストに当社製品を使っていただきました。この取り組みにより、新たな分野での市場開拓も期待されます。

植樹活動を通じて、地域との良好な関係を構築【フィリピン】

Nippon Paint Philippines, Inc.は、植樹活動を通じた地域支援を行っています。

現地の従業員のべ250名がこの活動に参加し、植樹後3～5年と比較的早期に果実がなるグヤバノというフィリピン原産の木を植樹しました。果実を収穫することでこの地域の200人の子どもを含む7,000人の生活基盤を築く一助となることが期待されます。

この活動を通じ、地域からの信頼を得るとともに、フィリピンの教育省や学校当局と良好な関係を構築しています。

Topics

地域とともにCSR活動を推進

東京都品川区に所在する東京事業所は、同区の小学校の遊具等の塗り替えを定期的実施しています。

同区は、「区民(企業)と区との協働で『私たちのまち』品川区をつくる」を区政運営方針として掲げており、その推進は「しながわCSR推進協議会」が担っています。日本ペイントグループは地域共生の考えから本協議会に2009年に加盟し、地域と一体となって塗り替えなどの活動を継続して実施しています。

